

# お茶と同情 Tea and Sympathy

作 関根信一

## 《時》

基本となる時間は2018年7月

## 《ところ》

東京

## 《登場人物》

浅野謙吾（あさのけんご）	……	石坂 純
藤原大地（ふじわらだいち）	……	井手麻渡
池内知美（いけうちともみ）	……	清水泰子
石井美佐子（いしいみさこ）	……	石関 準
野崎憲一郎（のざきけんいちろう）	……	鎌内 聡
横山修二（よこやましゅうじ）	……	岸本啓孝
杉本由香里（すぎもとゆかり）	……	木村佐都美
水谷浩輔（みずたにこうすけ）	……	小林将司
角田翔太（つのだしゅうた）	……	岸本啓孝
庄司拓実（しょうじたくみ）	……	小林将司
内藤彩花（ないとうあやか）	……	木村佐都美
中野友理（なかのゆり）	……	関根信一

## 《舞台》

パネルの間から青空がのぞいているからんとした空間。  
中央奥に少し高くなったスペース。  
イスが8脚置かれている。

\*

\*

\*

\*

\*

浅野謙吾が登場する。

浅野 (客席に) こんにちは。浅野謙吾といいます。都立高校で国語科の教師をしています。四十一歳。独身です。今日はみなさんにこの夏、僕が経験した出来事についてお話ししたいと思います。はじまりは、6月。教育実習生がやってくることになりました。藤原大地、二十一歳。僕は、国語科の主任なので、彼の担当ということになり、翌週から始まる実習の前に、校長、副校長と打ち合わせをしました。時間は午後。校長室です。

校長の石井美佐子、副校長の野崎憲一郎、実習生の藤原大地が登場する。  
場面は校長室。

石井 では、藤原さん、あ、これからは藤原先生と呼ばせてもらいますね。来週からの実習、よろしくお願いします。

藤原 はい、こちらこそ、よろしくお願いします。

石井 必要な書類の提出はもう済んでいますか？

藤原 副校長先生に。

野崎 先ほど、いただきました。

石井 いろいろきびしいこと言わなきゃいけないこともあるかもしれないけど、みんな経験があるから、教育実習。先輩だと思って、何でも言ってください。

藤原 はい。

野崎 緊張してる？

藤原 ええ、まあ。

野崎 リラックス、リラックス。うちは進学校だけど、校風は自由でね、こう言っちゃなんだけど、楽しんでもらええると思いますよ。って、卒業生だったね。失敬、失敬。

石井 どう久しぶりの母校は？

藤原 なつかしいです。西校舎工事中なんです。

石井 五年計画で全部建て替え。

藤原 耐震工事したばかりなのに。

石井 そうよ、もったいない。当時の先生方まだ誰かいたかしら？

野崎 養護の池内先生が。

石井 会っていく？

野崎 まあ、来週でもいいでしょう。これから二週間、毎日会うわけですし。

石井 そうね。それじゃ、来週から、よろしくお願いします。浅野先生も、実習生担当、二年連続で申し訳ないけど。

浅野 いいえ、僕も、自分を振り返るいい機会になるんで。歓迎です。

藤原、立ち上がる。

藤原 (一礼して) よろしくお願ひします。

教師たちも立ち上がる。

石井 では、おつかれさまでした。  
藤原 失礼します。



石井 浅野先生は、どうですか？  
浅野 僕ですか？

石井 ええ、担当教諭として。

浅野 実習に問題がなければ、僕は別に。

野崎 だめですよ。どんな問題が起こるか分からないじゃないですか。

石井 そんなに大変なことかしら？

野崎 生徒たちは混乱するに決まってる。言わなくてもいいことをわざわざ言う必要ないでしょう。

藤原 でも、言っておきたいんです。

野崎 そんな勝手な。だめです。

藤原 お願いします！

浅野 あの、それは藤原さんにとって重要なことなんですか？

藤原 はい。とつても。

浅野 それなら、いいんじゃないですか、言ってもらっても。生徒たちもいろいろなことを考えるいい機会になる。

藤原 ありがとうございます。

野崎 だめですよ。絶対に。浅野先生がそう言ったからってなんなんです。校長、これは学校全体の問題ですよ。

石井 野崎先生。

野崎 校長。

石井 野崎先生。

野崎 わかりました。それでは、この問題については、今日の職員会議で話し合います。学校全体で共有する。それならいいですね、副校長先生。

野崎 ……そういうことなら。

石井 藤原さんもお付き合いただけますか？

藤原 はい。

教師たち、池内知美、横山修二、杉本由香里、水谷浩輔が登場して、椅子を並べて座る。前の場面の人物はそのまま。

浅野 (客席に) そんなの話し合って決めることなんでしようかね。でも、とりあえずというかんじで、急遽、彼のカミングアウトの是非について、職員会議で話し合うことになりました。(藤原に) だいじょうぶ？

藤原 すみません。ご面倒をおかけして。

浅野 いいって、いいって。

職員会議。同じ日の放課後。

石井 そういうわけで、藤原先生は、自分がゲイだとカミングアウトしたいとおっしゃっています。私は、藤原さんの個人的な問題ですし、好きにしてくださいといいと思っと思っています。生徒たちが動揺するという意見もありますが、我が校の生徒を信頼すべきだと私は思います。みなさんのご意見をお聞かせください。

水谷 別にいいんじゃないですか。問題ないと思いますよ。ただ、言うだけですよね。自分分はLGBT男性だって。

藤原 えーと、LGBTっていうのはレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字を取ったものなので、LGBT男性という言い方はおかしいです。あえて言うなら、ゲイ男性ということになります。

水谷 へえ、そうなんだ。いいんじゃない。

横山 いいかげんだなあ、水谷さん。いいですか。教師である私たちも、このくらいわかってないんですよ。

水谷 じゃあ、横山さんはどうなんです。

横山 生徒たちは混乱するに決まっています。私は反対です。

藤原 別にわかってほしいわけじゃないんです。知っておいてもらえたらと思って。

横山 どういうこと？

藤原 先生方や生徒たちのなかにもいろいろな考えを持った人がいると思うんです。だから、わかって認めてほしいということではないんです。それにはきつと時間がかかると思うんです。ただ、僕はそういう人間なんだって、そういう人間がいるんだってことを知ってほしいんです。

池内 私は賛成です。藤原くん、いいと思うよ。応援する。

杉本 池内先生は、養護教諭という立場からおっしゃっているんだと思いますけど、私は反対です。そもそも学校で、そういった問題に子ども達が触れること自体が問題だと思います。我が校で使用している教科書には、LGBTについての記述がありません。生産性のない生き方については、教える必要がないということです。生徒達と謝った方向へみちびこうとするのはやめてください。

藤原 だから、そういうつもりじゃないんです。なんて言ったらいいか……

野崎 大体、おかしいでしょう。そういうことははじめから言うべきじゃないですか。

杉本 そうですよ。やり方が卑怯だと思います。

水谷 杉本先生……

池内 初めから伝えていればよかったですか。初めから伝えていたとしても、彼を実習生として受け入れたということでしょうか。

杉本 それはまた別の問題です。仮定の質問に答える必要はないと思います。

水谷 そういう理由で受け入れを断るのは問題があるんじゃないですか、副校長先生。

野崎 それはそのとおりです。

池内 だったら、いいんじゃないですか。

野崎 ですが、そのことを生徒達に伝えることが認められるかどうかは別です。

杉本 私は認められません。生徒達に悪い影響があったら、学校としての責任が問われます。

藤原 悪い影響ってなんですか？

杉本 子どもたちにとつてよくないことに決まってるじゃないですか。

横山 正しい知識がないまま、そのことをネタにいじめられたり、からかわれたりする生徒が出てくるかもしれない。

野崎 そうだ。

藤原 それは、いじめられたり、からかわれたりする側じゃなくて、いじめたり、からかたりする方に問題があると思うんです。

池内 もし、藤原さんがカミングアウトをして、何か問題が起きたとしたら、それは、藤原さんのせいではなく、問題を起こした生徒や私たちのせいだということになるんじゃないですか。

杉本 そんなのおかしいです。

水谷 僕は正論だと思うな。

横山 水谷さん、またいいかげんな。  
水谷 いいかげんじゃないですよ。  
石井 どうしましょう？

間

横山 多数決をしませんか？  
水谷 そんな乱暴な。  
杉本 いいと思います。  
池内 おかしくないですか。

教師たち口々に意見を言い合つ。うるさい。

野崎 一応です。一応。やるだけやってみましょう。

教師たち、静かになる。

石井 それじゃあ、藤原さんが生徒達にカミングアウトするのに賛成の方。

石井、池内、水谷が挙手。

石井 反対の方。

杉本、横山、野崎が挙手。

石井 浅野先生は？

杉本 棄権？

浅野 藤原さんがそうしたいと思う方に賛成したいと思います。(藤原に) どうします？

間

藤原 (立ち上がつて) やめておきます。ご迷惑をおかけしました。

池内 いいの、ほんとうに？

藤原 はい、そのために来たわけじゃないですし。どうも、すみませんでした。来週からよろしく願います。

野崎 まあ、本人が納得したなら、いいんじゃないですか。じゃあ、みなさんもそういうことでもいいですね。校長。

石井 それでは、この件についてはそういうことにします。では、これで。

教師たち、出て行く。

池内と浅野、藤原が残る。

池内 多数決なんて、絶対おかしい。

藤原 決めたのは僕なんで。

池内 がっかりしたでしょう。教育実習に来る前から、教師になんかかなりたくないって

思っていない？

藤原 そんなことないです。

池内 いろいろ話したいけど、またね。保健室で休んでる子がいるの。野球部の男子。熱中症っぽくて。

藤原 早く行ってあげてください。

池内 じゃあ。

池内、退場。

浅野 池内先生とは？

藤原 現役の時、いろいろお世話になって。初めてカミングアウトした人なんです。

浅野 へえ、いつ？

藤原 修学旅行で京都に行ったとき。宿が大部屋で男子ばかり十何人も。布団敷いたら、枕投げから始まって、大騒ぎになって、布団蒸しっていうか、なんとなくとつくみあいみたいなかんじで、何だかエロくて。寝たふりしてたんですけど、それが二晩続いたら熱が出て。あとはずっとどこにも行かないで、保健室がわりの部屋のベッドで寝てたんです。そのときに。

浅野 繊細なんだね。

藤原 今考えれば、一緒に暴れてみてもよかったですと思うんですけど。その時、聞いたんです。こんなふうに先生に相談する生徒って他にもいますかって？

浅野 池内さん、なんて？

藤原 もし、知ってたとしても、私から教えるわけにはいかないって。

浅野 それはそうだ。

藤原 でも、同じように悩んでる生徒はきつと思ってると思うって。一人きりだと思わなくていいって。それで僕、ずいぶんラクになったんです。

浅野 大学のサークルってどんなことしてるの？

藤原 できたばかりなんで、この間のパレードをみんなで歩いたくらいです。

浅野 ああ、連休にやってたやつ。渋谷で見かけた。

藤原 ありがとうございます。

浅野 ええ？

藤原 反対しないでくれて。うれしかったです。

浅野 賛成すれば違ったかもしれないのに。

藤原 いいんです。ありがとうございます。

藤原、頭を下げる。

顔を上げると、目をしばたいたっている。

藤原 あれ……

浅野 どうかした？

藤原 目にゴミが。

浅野 だいじょうぶ？

藤原 はい、あれ……

浅野 どれどれ、ちよつと見せて。

藤原 だいじょうぶです。

浅野 いいからいいから……

浅野、藤原の目をのぞき込む。  
抱き合うようなかたちになる。  
そこへ、角田翔太がやってくる。

角田 失礼します！

二人を見て、驚く。  
浅野と藤原、あわてて離れる。

浅野 どうした、角田？

角田 杉本先生は？ 部室の鍵、いるんで。

浅野 杉本先生なら、体育教官室だろう。

角田 さつき行ったら、ここだって聞いたんで。……失礼します。

横山、出て行く。

浅野 杉本先生、水泳部の顧問なんで。僕も去年まで。今は、角田って言って、二年の  
エース。副部长。

藤原 浅野先生、水泳やってるんですか？

浅野 昔ね。学生の頃、県大会まで行ったことがある。

藤原 今はブラスバンドの顧問？ 松本先生、転任されたんですか？

浅野 いや、体壊して退職。肝臓だつて。

浅野 今度、顔出してやってよ。じゃあ、今日は。

藤原 はい。

浅野 あ、そうだ、来週でいいんだけど、授業の指導案、用意しといて。何を題材にする  
かも。相談にのるから。

藤原 夏目漱石をやらせてもらえますか？

浅野 漱石の何？

藤原 「こころ」を取り上げたいんですけど、いいですか？

浅野 「こころ」か……

藤原 まずいですか？

浅野 いや、いいよ。ちよつとむずかしいけど。がんばつて。指導案まとめておいてもら  
えるかな。

藤原 はい。それじゃ。お先に失礼します。

藤原、出て行く。

浅野 翌週の月曜、朝の全校集会です。

場面は講堂。副校長の野崎が登場。石井校長も、並んで立っている。客席に全校  
生徒がいる心持ち。

野崎 では、今日から二週間、教育実習生として我が校にいらした藤原先生を紹介します。  
平成二十七年年度の卒業生でもあります。ご挨拶をいただきます。藤原先



生どうぞ。

藤原、登場。檀上へ。

野崎 簡単に自己紹介を。簡単に。

藤原 はい。おはようございます。東京学芸大学から来ました。藤原大地といいます。教科は国語を担当します。専攻は近代文学なので、夏目漱石についての授業ができたらと思っと思っています。受験科目としての文学ではない、物語のおもしろさを伝えられるよう、これから二週間、頑張っていきたいと思っっています。僕は……

野崎 ……。

藤原 えーと、僕は……

野崎 藤原先生。

藤原 僕はブラスバンド部に所属していました。クラブ活動のお手伝いもさせてもらえたらと思っっています。よろしくお願っします。

藤原、檀から降りる。

野崎

藤原先生ありがとうございます。それでは、今日の朝礼はここまで。気をつけ。礼。では、解散。

野崎、退場。

石井校長が藤原にちかづく。

石井 大丈夫？ すごい汗。

藤原 はい。

石井 緊張するからね。いい挨拶でしたよ。では、浅野先生、よろしくお願っしますね。  
浅野 はい。

石井、退場。

浅野（藤原に）それじゃ、授業に行きますか。最初は二年三組。

藤原 はい。

浅野 しばらくは僕の授業を見てもらうだけだけど、自己紹介はしてもらっんで。

藤原 今言っただけじゃないですか？

浅野 まあ、簡単でいいんで。

浅野 じゃあ、行こうか。

二人、歩くと、二年三組の教室。

生徒たちが座っている。角田翔太、内藤彩花、庄司拓実。他にもいっぱいいるの  
だが省略。

浅野 はい、じゃあ、今日から二週間、実習生として来ている藤原先生を紹介します。ま

あ、朝礼で会ってると思っけど、一応、あいさつを。

藤原 おはようございます。

生徒たち（ばらばらに）おはようございます。

藤原 藤原大地です。よろしくお願ひします。えーと……

内藤（庄司に）近くで見ると、イケメンだね。

庄司 うん。

角田 先生、彼女いるんですか？

藤原 え？（浅野に救いを求めるが）えーと、彼女はいません。

角田 じゃあ、彼氏はいたりするんですか？

内容 やだ、角田、何言ってるの？ いたりするんですか？

藤原 彼氏もいません。残念ですけど。

角田 へえ。そうなんだ。

浅野 はい、初対面で何聞いてるんだ。こういった、自己紹介のやりとりのなかで、パートナーがいるかを聞くのは、ハラスメントになります。

角田 ええ、いいじゃん、そのくらい。普通聞くよな。

内藤 どうしても、知りたいときはどうすればいいんですか？

浅野 相手が自分から話せるような関係をつくっていきます。

内藤 ええ？

浅野 では、授業を始めます。

浅野、客席に向かって語る。

浅野 さて、こうして、教育実習の二週間が始まりました。（藤原に）だいじょうぶ？

藤原 はい。全然。想定内ですから。

浅野 なら、よかった。

野崎がやってくる。

野崎 あ、藤原先生、明日の朝なんだけど、始業の前に校門のところで、生徒達に声かけをお願ひできますか。挨拶程度でいいんで。

浅野 あの、去年も言ったと思いますけど、そこまでしてもらわなくてもいいんじゃないですか？

野崎 教育実習ですよ。教育の一貫としての生活指導です。ぜひ体験してもらわないと。……。

藤原 わかりました、あの、何時に来れば？

野崎 部活で早く来る生徒もいるんで、7時30分くらいからお願ひできますか。

浅野 それは早いでしよう。

野崎 私は毎日、来れますよ。

藤原 あの、8時から浅野先生と打ち合わせの予定があるんですけど。

野崎 それは前日でもいいんじゃないですか？ 帰りに残ってもらって。

藤原 その日の記録を家でまとめ、それを元に打ち合わせするんですよ。

野崎 学校で全部やればいいじゃないですか。先生方みんなそうしてますよ。ねえ、浅野先生。

浅野 ええ、まあ。

野崎 じゃあ、よろしくお願ひしますね。

野崎、去って行く。

浅野 学校がブラック企業だつてことがわかるでしょ。  
藤原 教師って大変なんですね。予想はしてましたけど。  
浅野 どう、あきらめる気になった？

藤原 いえ、だいじょうぶです。びつくりはしましたけど、失望はしてないんで。  
浅野 前向きだ。

藤原 できるだけ、いい印象あたえたいと思うんで。

浅野 単位がかかっているからね。  
藤原 それもあるけど、ゲイだつて知ってるわけじゃないですか、だったら、余計にちゃんとしなきゃいけないんじゃないかって。

浅野 え？  
藤原 別に代表つてわけじゃないけど、ちゃんとしなきゃって思うんで。がんばります。

浅野 それじゃ、お先です！  
ああ、おつかれ！

藤原、退場。

浅野 場面は変わって、居酒屋。仕事の帰りに時々寄つていく店です。勤務校の最寄り駅じゃなくて、隣の駅から少し歩いたあたり。まあ、いろいろ噂になると面倒なんで。そこまで気を使うことないだろうって。いや、いろんなこと言ってくる親がいるんですよ。池内先生と一緒にです。

居酒屋の場面。

池内がいる。もうひとり、中野友理。

浅野 すみません。遅くなって。野崎先生につかまって。

池内 おつかれ。先に始めてた。何にする？  
浅野 ビールで。

池内 (店員に) ビール、もう一つ。  
(もう一人に気付いて) どうも。こちらですか、僕に紹介したいって。

池内 そうそう。うちの一年の保護者なんだけど。古い知り合いで。  
中野 一年二組の中野雄太の母親です。どうもお世話になってます。

浅野 ああ、中野くん。どうも、浅野です。こちらこそ。  
池内 私から伝えてもよかつたんだけど、直接聞いてもらった方がいいかと思って。

中野 学校には伝えてないんですけど、実は、私、レズビアンなんです。シングルマザーだつてことにしてるんですけど、相手と相手の子と一緒に暮らしていて、区の同性パートナーシップ宣誓もしていて。

浅野 ああ、そうなんですか。それがどうかしましたか？

中野 この頃、同性パートナーシップについての報道が増えて、ネットニュースの取材を受けたんですけど、もちろん仮名で。それが、どうやら学校で広まっているらしくて。そんなことに？

池内 みんな、おもしろがるからね。中野くん、別に気にしてないんだけど、言っちゃつていいものかどうかって、保健室に相談に来て。

浅野 言っちゃつていいものかどうかって？ 別に、本人がいいならいいんじゃないですか？ いろいろ大変だとは思いますが。

池内 そうじゃなくて、学校として。

浅野 え？

中野 浅野先生はどう思われます？

浅野 あの、さっきからずっと気になってるんですけど、なんで僕なんですか？ 担任でもないのに。

中野 だって、浅野先生、ゲイですよ。当事者として、一緒に考えてくれるんじゃないかって。

間

浅野 ちょ、ちょっと待ってください。なんでそれを？ 池内さん？

池内 私は言ってます。

浅野 じゃ、なんで？

中野 覚えてませんか？ ずっと前に会ったこと。10年くらい前のゲイパレードで。

間

中野 代々木公園で、大勢人がいるなか、一緒に写真撮ったじゃないですか。私と相方と雄太と。先生と先生のパートナーの方と。この間、公開授業で学校に行ったら、あれ、この人知ってるなと思って。写真あるんです。見たら、間違いないって。これです。

中野、写真を浅野に差し出す。

浅野と池内、写真を見る。

池内 ああ、中野くんだ、変わらないね。前歯。

中野 私このときから15キロ太ってるんで別人ですけど。パートナーの方はお元気ですか？

浅野 あ、亡くなりました。

中野 やだ、ごめんなさい。いつ？

浅野 この翌年です。ガンで。臍臓ガン。

中野 まあ。それは……

浅野 池内さんとはどういう？

池内 シングルマザーの会があつて、そこで。中野くんが、うちの高校受験したのも、そんなこともあつて。

中野 いろいろ相談に乗ってもらってるんです。

池内 そんな、お互いさま。

中野 (浅野に) どう思います？ 雄太のこと。私たちのこと。

間

浅野 僕が、池内さんに、カミングアウトしたのは、池内さんがシングルマザーだって聞いたからです。いろいろつらい経験を聞いてるうちに、僕もなんだか自分のことを話しておきたくなったんで、教師として、ゲイだからどうこうっていうつもりは全然ないんで。

池内 わかっている。学校では誰も知らないし、それで全然いいと思う。中野くんのこと、一応、聞いておこうと思ったんだけど。

浅野 本当ですか？ じゃあ、一応、お答えしますけど、好きにしてもらっていいと思います。

中野 いいんですか。

浅野 中野くんがそうしたいなら、そうしたらいい。何かあったら、支えますよ。でも、僕もそうだから、当事者だからってわざわざいう理由はないじゃないですか。

池内 それはそうだけど。

浅野 もしかして、中野くん、僕のこと知ってるんですか？

中野 ええ。一応。

浅野 うわ。

池内 だいじょうぶ、中野くん、ああ見えて、大人だから。教育実習で来た藤原くんのこともあるし、私も一度ちゃんと話した方がいいかと思ったの。

浅野 話すことなんてないですよ。僕は、自分のことをオープンにしないでだけです。自分を守るために、人がカミングアウトするのをやめさせようとは思わない。それだけですよ。

藤原がやってくる。

藤原 どうも。

浅野 ……そういうことだったんですか。藤原くんも知ってたんですね、僕のこと。

藤原 僕のことって？

浅野 僕がゲイだったこと。

藤原 わあ、そうなんだ。早く言ってくればいいのに。

浅野 え？

池内 今日、ちゃんと話せばいいと思って来てもらったんだけど。

中野 あら……

浅野 失礼します。

中野 写真！ さしあげます。

中野、写真を差し出す。

浅野、受け取って出て行く。

浅野 (客席に) まあ、そういうことです。別に内緒にしてたわけじゃない。ただ、言わなかっただけです。ここまでの場面の僕の態度、はつきりしないなあと思ってたんじゃないですか。たしかにそうです。でも、だからって、別にわざわざ言うことじゃないじゃないですか。そうですよ。みなさんにこうして話しているからって、これが全部、真実じゃない。話したくないことだってあるんです。いけませんか？ すみません。

浅野、写真を見ている。

藤原がやってくる。

藤原 先生。

浅野 あ、なに？

藤原 すみませんでした。池内先生に呼ばれてたのだまつて。

浅野 いいよ。こっちこそ、すまなかつた。

藤原 あの、僕、誰にも言いません。

浅野 ……

藤原 写真見せてもらつていいですか？

浅野、写真を渡す。

藤原、見ている。

藤原 いい写真ですね。かつこいいな。へえ。あ、先生も。

浅野 いいよ。ぶすつとしてるだろ。パレードのボランティアスタッフやつてるから、来  
いって、無理矢理つれてこれられて。みんな盛り上がって手つないだり、抱き合っ  
たりしてるの、僕だけ一人でしょ。なんだかてれくさくてさ。

藤原 名前なんていうんですか？

浅野 そいつ？ 春日。春日良司。

藤原 春日さん。どのくらいつきあつてたんですか。

浅野 6年かな、いや、7年か。代理店に勤めてて、カミングアウトしたんだよ、やめと  
けつて言ったのに。案の定、しなくていい苦労してさ。むちやくちや酒飲んでむ  
ちやくちや残業して、体壊して死んじゃったんだよ。だから、さつき言つてたけど、  
ゲイだからつて、がんばることないから。

藤原 はい。今は一人なんですか？

浅野 うん、親も二人とも死んじゃつたし、一人だよ。

藤原 そうじゃなくて、つきあつてる人とかは。

浅野 いない、いない。そういうのもういいから。藤原くんは？

藤原 ずつといなかつたんですけど、始まるかもしれないです。

浅野 いいね、学校の人。

藤原 はい。

浅野 同じサークル。

藤原 まあ、そんなところですよ。

浅野 がんばつて

藤原 はい。池内先生から聴いたんですけど、中野さん、靈感があるつて。死んだ人の姿  
とか見えちゃうつて。

浅野 キヤラ濃すぎだなあ。ほんとに？

藤原 ええ。今度、くわしく聴く約束したんです。

浅野 まあ、深入りしないようにね。教育実習中なんだから。

藤原 はい。

浅野 じゃあ、また明日。僕も7時半に行つてるから。

藤原 はい、また明日！

浅野、退場。

池内と中野がやつてくる。

池内 なに見てるの？

藤原 別に。

中野 そうか、亡くなつてたのか。やつぱり。

三人、退場。  
浅野、登場。

浅野 (客席に) 今話した事はだいたいほんとはです。あんなこと話すつもりなかつたんですけど。さて、藤原くんの教育実習も二週目、公開授業の日がやってきました。生徒たちに実際に授業をする。他の先生たちも見に来ます。見学というか、評価のために。内容は、夏目漱石の「ころ」。まあ、名作なんでいくつかのポイントをおさえておけば、まあ大丈夫。打ち合わせをしっかりとって、指導案を練り上げて、本番にのぞみました。

藤原登場。教室。生徒たちも。  
テキストを手に授業をすすめていく。

藤原 夏目漱石の「ころ」というのはこんな話です。先生と呼ばれる人がいます。この人には不思議な魅力があつて、この物語の語り手である「私」は、先生と鎌倉の海で出会い、その後、先生の家をたずねていつて、いろいろな話をします。就職の相談をしたり。先生には奥さんがいるんですが、この夫婦の関係は不思議です。子どももいません。冷えきつているようにも見えます。「私」は、先生や奥さんと話すうちに、先生の過去を知っていきます。この奥さんというのは、学生時代、先生が下宿していた先のお嬢さんだった人です。その下宿に、先生は、幼なじみのKという友達を連れてきて、一緒に住むようになるんですが、先生は彼を裏切ってしまう。先生は、お嬢さんを恋するようになるのですが、Kもお嬢さんを好きになつてしまう。ある日、先生は、Kがお嬢さんのことを好きだと先生に告白したすぐ後に、お嬢さんに結婚を申し込む。ショックを受けたKは自殺。先生はそのことがずっとトラウマになつていて、ようやく手に入れた奥さんとの関係もうまくいかない。それから十数年が経って、明治が終わると、乃木大将が殉死をすると、先生も、自分も死のうと決意して、長い長い遺書を実家に帰っていた私に送る。それが、今回取り上げる「ころ」の第三部「先生の遺書」の部分です。

浅野 高校の国語で扱う、漱石の「ころ」は主にこの第三部です。Kはなぜ自殺したのか？、先生がKに対して抱いた感情は？ など過去の問題でも取り上げられているポイントをわかりやすく、ていねいに。そして、生徒たちに考えさせながら、授業をすすめていきました。僕が言うのもなんですが、いい授業です。緊張して早口になつたのか、少し早く終わってしまった。

藤原 では、これで一応、終わりなんですけど、少し時間があるので、何か質問があつたら、漱石の「ころ」についての感想でもいいですよ。

内藤 はい！

藤原 どうぞ。

内藤 先生はKのことを愛していたんですか？

角田・庄司 ええっ？

内藤 だって、先生が自殺するのはKが自殺したからですよ。愛していたからだと思うんですけど、違いますか？

問

藤原 どう思いますか？

内藤 質問に質問で答えるのはよくないと思います。

藤原 あ、ごめん。

内藤 藤原先生の考えを知りたいです。

藤原 それは、愛していたと思いますよ。かけがえのない友人として。

内藤 じゃあ、「私」も先生を愛していたんですか？

藤原 え？

内藤 だって、ストーリーみたいにつきまとうじゃないですか。出会いが鎌倉の海ついでうのも怪しいと思います。

藤原 たしかにそうだね。

内藤 あと、先生に言われるじゃないですか。「異性と抱き合う順序として、まず同性の私の所へ動いて来たのでしよう」って。

角田 え、まじ。ホモ？

内藤 (角田に) やめて、そういう言い方。(藤原に) それも友情なんですか。

藤原 えーと、漱石の「こころ」はいろいろな研究がされています。友情と裏切りと後悔の物語とする考えもありますし、明治の男達の間には、今よりもっと普通に友情よりは愛情に近い感情があったという考えもあります。

内藤 やった。

藤原 内藤さんの考えは、今のボーイズラブの延長のように思えるかもしれませんが、一つの説として認められているものです。友人から聴いたのですが、アメリカの書店では漱石の「こころ」はゲイ文学のコーナーに置かれていることもあるそうです。

生徒達 えええ！？

チャイム。

藤原 では、今日の授業はこれで終わります。

角田 起立、礼。

ざわざわ。

浅野 (藤原に) おつかれ！

藤原 だいじょうぶでしたか。

野崎 最後の質問の答えは余計でしたね。

浅野 いや、よかったんじゃないですか。なんとなくごまかすポイントをすつきり言葉にしてくれたと思いますよ。一つの見方として、理解が深まると思います。

野崎 そうですかね。

野崎、退場。

浅野と藤原も。

角田 (内藤に) お前、ほんとに好きだなBL。

内藤 (莊司に) 今度、ドラマCD貸したげる。「こころ」のBL版。

庄司 うん。サンキュ。

角田 (内藤に) おまえさ、水泳部のマネージャーだろ。プール掃除、手伝えよな。

内藤 ブラバンの練習があるから、ごめん。庄司、藤原先生、今日の部活来てくれるって。



庄司 まじ。楽器、何なんだろう？  
内藤 現役の頃はフルート吹いてたんだって。  
庄司 俺と一緒にじゃん。萌え！  
内藤 もっと話聴いてみない。行くよ。  
庄司 うん。

内藤と庄司、退場。

角田 なんだよ、おまえら。

角田、退場。

場面はかわって、保健室。  
白衣の池内。野崎がいる。  
石井がやってくる。

野崎 校長、どうされました？

石井 野崎先生こそ、どうしたんです。

池内 胃がきりぎり痛むそうで胃薬を。

石井 まあ、だいじょうぶですか？

野崎 ええ、落ちつきました。集団検診ではなんともなかったんで、ストレスでしょう。

石井 笑顔で言われてもねえ。あ、池内さん、野球部の男子、熱中症、どうしました？

池内 出て行ってしまつて。大会前から休めないつて。

石井 この暑さ。高校野球が夏にあるつて間違つてると思いますよ。

池内 春と秋にしましょうよ。

石井 そうね。

野崎 甲子園は夏です。この暑さに耐えてこそ高校球児でしょう。

池内 応援のブラスバンドの子たちも倒れたりしてるんですよ。かわいそうに。

野崎 高校野球の応援、ブラスバンド部の晴れ舞台じゃないですか。今日も外でトレーニングしてますよ。

三人、窓の外を見る。

トレーニンングをする生徒の声。

池内 あ、藤原くん。仕切ってる、仕切ってる。

石井 ほんとに。

池内 藤原くん、現役の頃は、引っ込み思案で、一人で屋上で練習してると「悪魔が来たりて笛を吹く」なんてからかわれてたんですよ。

石井 大学に行つて変わったのね。

池内 カミングアウトしたのも大きかったんでしょね。

野崎 (咳ばらい)ともあれ、無事に終わって、何よりでした。「こころ」の授業はどうかと思いましたが。

石井 よかつたんじゃないですか。先生方の評価も高いですよ。

野崎 自分がそうだつてことは言わない約束だったのに、なんだかんだと余計なことを。  
池内 生徒たちの評判もいいじゃないですか。保健室によく来てる子が、「こころ」の文

庫本持って読んでますよ。

野崎　　ブラスバンド部に女子が大勢入部したそうじゃないですか。まったく何がなにやら。このまま、来週からの期末試験かと思うと心配です、私は。

池内　　また、悪い影響ですか？

野崎　　ええ。

池内　　でも、生徒たちは知らないわけですよね。

野崎　　伝わるんじゃないんですか？　　そういうのは。

石井　　教育実習は今日で終わりですが、来週の月曜の全校集会に来てもらえるようお願いしました。

野崎　　無事にすんでほしいですね。それでは。

野崎、出て行く。

石井と池内、顔を見合わせる。

翌週の月曜朝の全校集会。

浅野が登場。遅れて藤原も。

浅野　　さて、月曜日、藤原くんは二週間の教育実習を終えて、我が校を去ることになりました。先週の金曜の放課後、ブラスバンド部だけでなく、多くの女子生徒が、藤原くんとの別れを惜しんだそうです。

野崎と石井。池内も。

石井　　（藤原に）わざわざ来てもらってごめんさいね。

藤原　　いいえ、またみんなに会えてうれしいです。

野崎　　お伝えしたと思いますが、生徒との個人的な連絡はご遠慮ください。  
藤原　　わかっています。

野崎、壇上へ。

野崎　　はい、静かに。それでは、全校集会を始めます。気をつけ。礼。

一同、礼。

野崎　　今日は、校長先生のお話の前に、先週末まで教育実習に見えていた藤原先生がご挨拶に来てくださいました。藤原先生からお言葉をいただきましたと思います。（藤原に）藤原先生。

藤原　　はい。

藤原、壇上に。

藤原　　二週間の教育実習、いろいろお世話になりました。本当にあつという間で、夢のようでした。国語の授業、またブラスバンド部のお手伝いと、楽しい時間をすごさせてもらいました。えーと、僕は……

生徒たちの中から声。

声 ホモ！！

藤原、凍り付く。  
生まれて初めて聞く、自分に向けられた侮辱と罵倒、嘲りの言葉。  
目の前の生徒たちの誰が発したのか探すが、声の主はわからない。

藤原（なんとか立ち直って）僕は、この二週間……

今度は複数の声。

声たち ホモ！！

藤原、再び凍り付く。  
もう言葉が出ない。

野崎 無視してください。聞き流して。

石井 藤原先生。

野崎 続けてください。

藤原、立ち尽くしている。

浅野が、藤原のとなりに立つ。

浅野 今のは誰ですか？

野崎 浅野先生。

浅野 誰ですか。失礼だろう！ きみたちは恥ずかしくないのか！？ 今、声を上げたもの、名乗り出なさい。

藤原 先生……

浅野 誰ですか？

藤原 だいじょうぶです。続けます。

池内 藤原くん。

藤原 だいじょうぶなんです。

藤原、生徒たちに向き直る。

となりに浅野が立っている。

間

藤原（考えながら、静かに話し始める。）今、僕のことを「ホモ」を呼んだ人に伝えた  
いことがあります。「僕はホモじゃない」、そう反論するつもりはありません。そ  
れがなぜかを説明したいと思います。映画俳優のマット・デイモンは、親友のベン・  
アフレックとの関係を長い間噂されていますが、ホモセクシュアルなのは？とい  
う質問に、そうだとも違うとも答えていません。なぜかと尋ねられた彼は、こう答  
えました。「僕がこの手の噂を否定しないのは、それを否定することで、勝手にホ  
モセクシュアルだとされた人たちに失礼だと思ったからです。だから、僕も否定し

ません。ですが、「ホモ」というのは差別的な言い方です。侮辱や軽蔑のための言葉として、長い間、使われてきたものです。僕たちは、「ゲイ」という言葉を選びました。「ゲイ」というのは、侮辱し軽蔑する側が選んだ言葉ではなく、誇りを持って自分達のことを呼ぶことができるように、僕たちが選んだ言葉なんです。そう、僕たちが。

間

藤原

ほんとうは初めての挨拶の自己紹介で伝えようと思っていました。ですが、言わないでおこうと思いました。言わなくてもいいと決めました。この二週間、とても充実した時間を、なつかしい母校で過ごすことができました。ありがとうという言葉も伝えたいと思ったときに、ひっかかっていたのはこのことでした。嘘はついてない。ただ言わないだけじゃないかという言い訳はやめて、サンプルにさらつとかんたんに伝えたいと思います。僕はゲイです。大学のLGBTのサークルで活動もしています。みなさんの中に、もしかしたら、僕と同じような気持ちの人がいるかもしれない。僕が高校生だったとき、当たり前のように「僕はゲイなんだよ」と言ってくれる人がいたらいいなと思っていました。なので、僕はそういう人になろうと思つて、教員になろうと決めました。はじめましての挨拶が最後になつてしまいました。話すことができよかったです。どうもありがとう。また、会いましょう。

藤原、頭を下げる。起き直ると壇を降りる。

浅野も、壇を降りていく。

野崎

はい、藤原先生からの挨拶でした。では、校長。

石井、壇上に。

石井

藤原先生の立派な挨拶でした。私からこの上、話すことはありません。藤原先生の今の言葉、しっかり受け止めてもらえたらと、ここから願っています。それができるといいなと信じています。

浅野を残して、退場。

浅野

(客席に) こうして、藤原くんは、カミングアウトして、我が校を去っていきました。晴れ晴れとした笑顔で。僕は死んだ春日の笑顔思い出していました。藤原くんの人気は相変わらず、彼がゲイだということがわかって、さらに盛り上がりました。僕にとってはやや面倒な方向に。

内藤と庄司がやってくる。

内藤

ねえねえ、浅野先生と藤原先生のカップリングだったら、攻めと受けはどっちがより萌える？ 攻め受け？ いや、受け攻め？ どっちもありか？

庄司

別に萌えないよ。二人ともそれぞれの尊みがあるわけだし。無理に一緒にしなくてもいいじゃん。

内藤 だって、ありがたみしかなくない？ こないだの集会、藤原先生を見守る浅野先生とおとみしかない。藤原沼、深すぎ。

庄司 勝手に萌えてろよ。

庄司、退場。

内藤 どうしたんだよ。

内藤、退場。

保健室。

池内と浅野。

池内 ねえ、知ってる。浅野さんと藤原くん、うわさになってるらしいよ。

浅野 根も葉もないうわさです。あれから一度も会ってないんだから。

池内 妄想の力はすごいね。授業さぼってる漫画研究会の子がイラスト描いたっていうから、見せてもらったら、あなたたちが濃厚にからみあってたよ。見る？

浅野 結構です。もう見てるんで。

池内 浅野さんとしてはどうなの、藤原くん。

浅野 は？ 何言ってるんですか、池内さんまで。ないですよ。全然ない。いくつ違うと思ってるんですか。

池内 そこがまた萌え要素なんだとかって言ってたけど。どう？

浅野 現実に戻ってきてください。

池内 そうか。残念。

浅野 え？

野崎がやってくる。

野崎 浅野先生、ちょっと校長室まで来てもらえますか？

浅野 为什么呢？

野崎 保護者が先生に会わせろって来てるんですよ。藤原さんと浅野先生の件が耳に入ってたんでしょう。

浅野 僕が関係あるんですか？

野崎 とにかく来て下さい。

浅野 はい。

校長室。

石井と中野友理がいる。

石井 ああ、野崎先生。帰ってきた。

野崎 本人を連れてきました。

浅野 あ、中野さん。

野崎 お知り合いですか？

浅野 ええ、まあ。

石井 一年二組の中野雄太くんのお母さん。

中野 母です。

野崎 どうも。今日はどういった？

石井 野崎さん、かんちがい。別の話。

中野 じゃあ、もう一度、お話ししますね。私、シングルマザーだってお伝えしてたんですけど、ちょっと違うんで。

野崎 ご結婚された？

中野 まあ、そんなところ。世田谷区の同性パートナーシップ宣誓をしてるんです。

野崎 は？

中野 世田谷区の同性パートナーシップ宣誓をしてるんです。

野崎 はあ？

中野 同性の女性のパートナーと一緒に暮らしています。雄太には父親がいないかわりに母親が二人いるんです。

野崎 それって……

中野 はい、レズビアンマザーです。ネットのニュースになったりしたんで、噂が妙に広がる前に、お知らせしておいた方がいいかと思ったので。

問

野崎 またですか……

中野 なにか？

野崎 いえ、なにも。

石井 野崎先生。今、お話をうかがって、学校として、きちんと対応するようお答えしたところですよ。

野崎 中野雄太くん、野球部ですね。そんな事情があったとは知りませんでした。がんばってるんですね。いや、わかりました。

中野 あの、雄太はがんばってると思いますけど、それは私たちがレズビアンだからってわけでもないです。

野崎 はあ。

中野 私たちががんばってるんで。

野崎 失礼しました。浅野先生、お呼び立てしてすみませんでした。

浅野 いいえ、そういうことなら。

石井 野崎先生、早とちりなんだから。

野崎 すみません。

中野 何を早とちり？

野崎 いえ、教育実習で来ていた学生と浅野先生のこととで苦情を言いに見えたのではないかと思います。

中野 そんなこと言うわけじゃないですか。雄太から聞きました。全校集会で、ホモってヤジが聞こえたときに、浅野先生がきつちり反論したって。

浅野 僕は別になにも。

中野 うれしかったです。自分のことのように。生徒達にきちんとカミングアウトしたなんて。決心したんだなあと思つて。春日さんも喜んでいると思う。

浅野 いや、僕は……

中野 雄太も言っていました。すつごいかつこよかつたつて。

石井 カミングアウトしたのは藤原先生ですよ。

中野 ええ、それから、浅野先生も。

野崎・石井 え？

中野 そう聞きましたけど……。やだ、わたしが勘違い。

石井 浅野先生、失礼ですけど、先生も、その……

間

浅野 はい、そうです。お伝えしていませんでしたが。

野崎、ためいきをつく。

中野（浅野に）ごめんさい。ほんとに。

浅野 いいんですよ。いい機会だったんで。先生方には、知っておいてもらえたらと思います。

石井 わかりました。

野崎 まあ、知れ渡ってるようなもんですけどね。

石井 野崎先生。

野崎 失礼しました。

浅野を残して、退場。

池内がやってくる。

池内 中野さん、ほんとにそそっかしいんだから。私からもごめんさい。

浅野 いいですよ、ずいぶんあやまられました。あの場だけの話ってことにもなったんで。

池内 今度、みんなで食事しない。中野さんたちとあと藤原くんも呼んで、おおぜいで。

浅野 企画してください。

池内、退場。

浅野 期末試験が始まりました。校長と副校長にカミングアウトしたわけですが、僕のまわりは何も変わりません。何も変わらない。いや、知ってる人間が増えたことで、ちょっと気がラクになったかもしれない。一年二組の中野雄太くんも、お母さんたちのことをみんなに話したようですが、それが問題になることもありませんでした。高校生はじゅうぶん大人だし、それほどひまじゃないってことなのかもしれない。教師も同じようにこの時期は大忙しです。試験の採点。プラスバンド部の予選、あわただしく毎日が過ぎていきました。

角田がやってくる。

浅野 ああ、角田。ちょっと。

角田 なんすか。

浅野 来週の補習の予定決まったんで、来週の土曜日。10時から。

角田 だめですよ、おれ試合なんです。

浅野 お前、選手じゃないだろう。

角田 いや、副部長だし。無理っすよ。

浅野 水泳部のきまりだ。授業が優先だろう。

角田 授業って補習じゃないすか。

浅野 赤点とったお前がわるい。いいから、予定しておくように。杉本先生も了解済みだから。じゃあ。

角田 あ……

浅野、退場。

角田 なんだよ、つたく。畜生。

庄司がやってくる。

角田 お、庄司、ちよつと来いよ。

庄司 なに？

角田 いいから。

二人、ひとけのないところへ移動。

角田 おまえさあ、この頃元気ないのなんで？

庄司 え、そんなことないよ。

角田 失恋ってやつ？

庄司 失恋ってだれに？

角田 藤原、教育実習で来てた。あいつ、浅野といいかんじらしいじゃん。

庄司 ええ、まじ？

角田 まじまじ。浅野って、ぜつたいそうじゃん。こないだの全校集会でまじぎれしてたし。俺、見ちゃったんだよね。

庄司 なにを？

角田 あいつらが会議室で抱き合ってるところ。俺がはいってたら、離れたけど、結構のはげしく。やばくねえ。学校だぜ。ていうか、トシの差かんがえろつての。

庄司 そうなんだ。

角田 相談があんだけどさ。ちよつと手伝ってくんね。

庄司 なに？

角田 おれ、浅野のせいで、試合出られなくなって、仕返ししたいんだよ。

庄司 それは、自分が赤点とったからだろ。

角田 うるせえな。おれ、知ってんだぜ。お前さ、音楽室から泣きながら出てきたことあるだろ。

庄司 え、何それ？

角田 4月くらい。あとから浅野が出て来た。何があつたんだよ。

庄司 何もないよ。

角田 それさ、校長とかに言わなくていいの？

庄司 なんで？ 部活の話してただけだつて。

角田 俺、言つとくから。俺が見たこと。何があつたかは知らないけどつて。

庄司 やめてよ。

角田 あいつどうなるか、楽しみだな。  
庄司 やめろつて。



角田 あ、そんなこと言っていていいわけ。じゃあ、おれ言っちゃうよ。  
庄司 だから、なんだよ。  
角田 おまえがホモだったこと。  
庄司 違うよ。何言ってるんだよ。  
角田 じゃあ、ゲイだってことならいいのかよ。忘れてないからな、中学の時、うちに泊まりに来て、こっそり酒飲んで、お前が何したか。  
庄司 ……やめてよ。  
角田 だから、協力してくれっていつてんじやん。  
庄司 ……。  
角田 おれにまかせとけって。

角田、退場、  
庄司、少し遅れて後を追っていく。

校長室。

石井と野崎が登場。

浅野がやってくる。

浅野 なんでしょうか？

石井と野崎、顔を見合わず。

石井 生徒から、浅野先生についての相談がありました。

浅野 はい、なんでしょう。

石井 この4月に、放課後、二年三組の庄司拓実と音楽室で話しましたか？

浅野 4月？ ああ、部活のことでしたか？

石井 どんなことを？

浅野 は？

石井 どんなことを話しましたか？

浅野 部活のことをいろいろと。

石井 他には？

浅野 他と言われても、いつも話すようなことです。練習の前に少し話したんだと思います。

石井 練習のない日だったと聞いています。

浅野 ああ、そうだったかもしれません。

石井 (強く) どっちなんですか？

浅野 どうしたんです？

野崎 庄司拓実は言葉を濁していましたが、ハラスメント行為があつたのではありませんか。

浅野 は？ ハラスメントって、なんですか？

野崎 性的なことです。セクシャルハラスメント。

浅野 そんなことしてないです。するわけないじゃないですか。

野崎 庄司拓実は泣きながら音楽室から出てきた。それを目撃している生徒がいます。

浅野 ちょっと待ってください。誰です、それは？

野崎 お伝えるするわけにはいきません。

石井 何があつたのか教えていただけます？

問

浅野 私には覚えがありません。もしかしたら、部活のことで、何かきびしいことを言ったのかもしれませんが、4月のことでしょう。よく覚えてません。

野崎 このところ、学校内で性的なことについての話題が多くなっています。その流れで、やはり言っておこうと思つたと庄司拓実は言っています。

石井 浅野先生。先生のことを信じていないわけではないんです。ですから、本当のことを話してください。

浅野 庄司はなんて言ってるんですか？

石井 言葉にするのはつらいことがあつたと。

浅野 それがセクシユアルハラスメントだと。

石井 そう尋ねたら、彼はうなづいていました。

浅野 そんなばかな。

野崎 そんなばかなとはなんですか。これは重大な問題です。

石井 何があつたんですか？

問

浅野 何もあります。それしか僕には言えません。

問

石井 わかりました。では、このことについては、庄司くんからもあらためて事情を聞くことにします。先生も思い当たることがあつたら、お知らせください。

浅野 わかりました。

石井 このことは、ここだけの話に。いいですね。

野崎 はい。

石井、野崎、退場。

浅野 誰にも言っていないはずなのに、この事件については誰もが知るところとなつてしまいました。同時に僕のこと。僕はゲイで、藤原さんと教室で抱き合い、音楽室で個人面談中の庄司にもハラスメント行為をしていたと。水泳部の顧問をやめたのも、何か理由があるにちがいないと。

場面は変わっていつもの居酒屋。

池内、浅野、藤原。

池内 庄司くん、私に相談に来てないのはなんでだろう？ 信用ないってことかな。

藤原 4月にあつたことを今頃っていうのも不思議ですよ。

池内 うん。浅野さん、ほんとうにおぼえてないの。

問

浅野 おぼえてますよ。

藤原 なんだ、じゃあ、言え方がいいのに。どうして黙ってるんです。

浅野 それは……

池内 守秘義務ってこと。

浅野 ええ、まあ。

藤原 なんですか？

池内 庄司くんから相談を受けたってこと。何か重大な。

浅野 ええ、まあ。

藤原 なんの相談ですか？ あ、ごめんなさい。

問

池内 私たち養護教諭やカウンセラーには、相談されたことを公表しない義務がある。で

も、例外もある。相談の内容が、相談した生徒の自傷や他傷につながるとき。

浅野 わかってます。でも、僕がそのことを話したら、それがきっかけで何が起るかわからない危険性もあるわけで。

藤原 どういうことですか。

問

浅野 一橋大学のアウトティング事件。友人に、自分はゲイだと告白して、好きだ、付き

合ってほしいとメッセージを送った男子学生が自殺した事件。告白された男子学生が、彼がゲイだということをラインで公表したのが原因で。

池内 待つて。もしかして、庄司くんに相談されたのは……

問

浅野 僕がゲイだってことも、いつの間にか、学校中に知れ渡ってる。カミングアウトも

してないのに。そんな状況で守秘義務が守られるわけがない。

池内 でも、このままじゃ、浅野さんがひどいことしたって話だけが広まるじゃないですか。もしかしたら、処分の対象になるかもしれない。

浅野 でも……

藤原 何があったのか、話してください。力になれるかもしれない。

問

浅野 それじゃあ……

庄司が登場する。

場面は、4月の放課後の音楽室。

浅野 ああ、どうした。庄司。

庄司 先生……。 (決心して) 先生は結婚しないんですか。

浅野 ああ、しないなあ。

庄司 なんですか？

浅野 一人が気楽だし、それにこの年になると出会いもそうそうないんだよって、損なこ  
と聞いてどうするんだ。

庄司 そうなんだ。僕、先生のこと、ゲイなんじゃないかと思ってました。

浅野 ゲイ？

庄司 違います？

浅野 さあ、どっちだろうな？

庄司 僕、ゲイなんです。ずっとそうなんじゃないかと思ってたんですけど、そうなん  
だって。

浅野 そうなんだ。ありがとう。聞かせてくれてうれしいよ。

庄司 はい。

浅野 誰か、好きな相手とかいるのかな？ あ、別にいいんだけど。

庄司 います。

浅野 ああ、そうなんだ。部活の誰か？

庄司 ええ、まあ、そんなところですよ。

浅野 へえ、誰？ あ、別にいい、教えてくれなくて。

庄司 先生です。

浅野 え？

庄司 浅野先生です。

浅野 僕？

庄司 はい。

間

浅野 ちょっと待って。

庄司 だめですか？

浅野 だめじゃないけど、ほら、僕は応えられないから。

庄司 僕が未成年だから。

浅野 それもそうだけど、なんていうか……

庄司 ゲイじゃないから。

浅野 そう、そういうこと。

間

庄司 ですよ。ありがとうございます。言っですつきました。うん。じゃあ、明

日からも部活よろしくお願いします。

浅野 ああ、こっちこそ。

庄司 (笑顔で) じゃあ。

庄司、退場。

場面はまた居酒屋に。

池内 それで泣いてたの？ 笑ってたんじゃないの？

浅野 それだけ深刻なことだったんだって気がついて。軽々しく人には言えないなって。

藤原 たしかに。

池内 庄司くん、そうだったんだ。  
藤原 どうしたんです？

池内 なんだかちよつときびしいな。私じゃなくて、浅野先生に相談してたなんて。  
藤原 相談っていうか、告白だと思うんで。

浅野 なので、これは誰にも言えないと思って。もし話したら、それこそ一橋大みたいなことになりかねない。

藤原 でも、浅野先生はそれでいいんですか。

浅野 もし教員の間だけってことで話したとしても、いつのまにか広まって、彼がどう傷つくかもしれない。

藤原 どうしたらいいんだろう。

池内 ただのうわきなら、おさまるのを待てばいいんでしようけど。まいったなあ。ハラメントってことで問題になったら、そう簡単はおさまらない。

藤原 庄司くんと話す？

浅野 いや、わざわざ校長に話言ってるくらいだから、僕にいい感情持っていないでしょう。正直、ちよつとこわくて、部活で会うのも。まあ、このところ、ずっと休んでるみたいなんですけど。

池内 じゃあ、会ってないの？

浅野 ええ。一度、話さなきゃとは思ってるんですけど。

池内 学校側は、両方が顔を合わす機会はつくらないでしょうね。

浅野 たぶん。どうもありがとうございます。このことはくれぐれも。

池内 わかっている。

藤原 はい。

浅野 じゃあ、行きます。

浅野、出て行く。

池内、藤原、顔を見合わせる。  
しばらくして退場。

浅野が一人。

藤原がやってくる。

藤原 僕も駅まで一緒に。  
浅野 うん。

二人、歩いている。

浅野 どう、まだ教員になりたいと思ってる？

藤原 なんですか？

浅野 だって、自分はゲイだって言っただって、教師になりたいんでしょ？

藤原 はい。

浅野 面倒なことにまきこまれるかもしれないよ、僕みたいに。

藤原 そうですね。でも、だいじょうぶです。

浅野 はじめからちゃんと言っただけ違うってこと。僕みたいにはつきりしてないのがよくないって。

藤原 そんなことないですよ。

浅野 ごめん。愚痴っぽくなった。飲み過ぎたかな。

二人、また歩く。

浅野 こんなこと言うとショックかもしれないけど、藤原くんが教員になるのはむずかしいと思うよ。

藤原 成績ですか？

浅野 そうじゃなくて、初めからゲイだってカミングアウトするんですよ。きつと採用されない。

藤原 そうかな？

浅野 表向き、そのことは理由にしないけど、きつとそうなる。

藤原 でも、そんな学校ばかりじゃないですよ。きつとなれるって思うんです。もし今がそうでも、いつかきつと。

浅野 楽観的だ。

藤原 ええ。

浅野 初めから、カミングアウトするのが必ずしもいいってことにはならないんじゃないか。最初はだまって、就職してから、初めて言う。そうだよ。外国の俳優だってそうじゃないか。もうよぼよぼの年寄りになってから、実はゲイですって。もつと早く言えよって思ってたけど、気付いたんだ。言ってもだいじょうぶなところまでのし上がったから、この人たちは言えるんだって。

藤原 そうじゃない人もいっぱいいますよ。これからはきつと。

浅野 それまでは、言いたいのに言えない人間が苦労する。言っても大丈夫なところまで行つてない人間がづらい思いをする。その上、初めからカミングアウトしてる若い世代をたすけるのは、その人たちなんだ。

藤原 感謝してます。

浅野 いいよ。お互い様なんだから。

間

浅野 漱石の「こころ」の先生の気持ちがわかるようになったんだ。

藤原 え？

浅野 先生がなんで死を選ぶのか

藤原 なんです？

浅野 自分の中にある認めるのがむずかしいことを、軽々と受け入れている若い世代と出会って、ショックを受ける。そして、人生をやり直すことができないうちに気付いた。

藤原 先生……

浅野 やり直せたら、どうしたろう？ いくら考えてもかなしくなるだけなんだよ。でも、そう、チエーホフが書いてる「今の私たちの苦しみが、きつと未来の人間の幸福につながる」って。

藤原 そんなのダメですよ。今が幸せでなくちゃ。そんなの絶対ダメです。

間

浅野 そうだね。じゃあ。

藤原 死んじやだめですよ。  
浅野 わかってる。

藤原、浅野に近づく。  
浅野、それを拒むように。

浅野 おやすみ。  
藤原 ……じゃあ。

藤原、退場。

浅野 死にはしないんですが、休職しようと思いましたが。夏休み中の部活を休んで、二期から復帰しよう。わかってます。逃げてるんです。でも、逃げていい、休んでいい。自分にそう言い聞かせて、石井校長のところへ向かいました。

石井、登場。

校長室。野崎もいる。

浅野 そういうわけで、休職させていただけたらと思つてうかがったんですが……。やっぱりやめます。

石井 やめるって何を？  
浅野 休職です。いろいろありますが、ここで逃げるわけにはいかない。決めました。校長、庄司と話をさせてください。ちゃんと話したいです。僕がゲイだつてことは、いつのまにか知れ渡ってますけど、そうじゃなくて、ちゃんと僕の口から彼に伝えたい。その上で、もう一度話を聞こう、そう言いたいんです。

野崎 浅野先生。  
石井 庄司くんなら、さきほど、話にきてくれましたよ。まだ、そこに。

庄司が出てくる。

庄司 すみませんでした。  
石井 浅野先生と何があつたかも聞きました。なぜそんなことをしたのかも。ですが、そのことについてはまた改めて。

間

浅野 (庄司に) ありがとう。でも、どうして急に？

庄司 藤原さんの大学のサークルに顔を出したんです。ブラスバンド部のみんなと。マーチングバンドをつくつて、来年のパレードと一緒に歩こうって話しました。

浅野 ええ？

庄司 それと、いろいろ誤解があつたと思うんですけど、今は浅野先生のこと、なんとも思つてないんで。忘れてください。

浅野 え？

庄司 今は、藤原先生、ひとすじなんです。じゃあ。失礼します。

庄司、出て行く。

石井 庄司くん、なんだか大人っぽくなりましたね。

浅野 そうですか？

石井 ええ、いい経験をしたんだと思いますよ。

浅野 それならいいんですが。

野崎 浅野先生。昨日、一年二組の中野雄太の家に行っただんです。どんなふうかと思っ

してね。彼にも彼のお母さんにもぜひ来て欲しいと言われていたんで。いや、おどろきました。なんていうか、普通の家族でしたよ。もちろん、父親はいないんですが、お母さんのパートナーだという女性と、その娘さんと。娘さんは大学生で、就

活中だそうですね。夕飯をごちそうになりました。もちろん辞退したんですけどね。恥ずかしいんですが、ひさしぶりに食卓を囲むということをしましたよ。実は、家内が家を出ていましてね。息子もために帰ってきてても部屋にこもりっぱなしで。いや、なんとも、いい時間でした。ひさしぶりに家族というものに、触れた気がしましたよ。そして、今まで偏見を持っていたことを反省しました。浅野先生。藤原さんのことも合わせて、お詫びをしますよ。

浅野 いや、そんな。僕に言われても。

野崎 それで、浅野先生は同性婚のご予定はないんですか。

浅野 ないです。

野崎 それは残念だ。藤原さんとはどうなんですか。

浅野 副校長まで。何もないです。

二人は退場。

浅野、客席に語りかける。

浅野 そうして、僕はブラスバンド部の顧問として、夏休みもずっと学校へ通うことになりました。藤原くんは今度はOBとして、部活に顔を出しています。こんな話もあつたようです。

庄司と角田が登場。

角田 なんだよ、つまんねえな。いいところまでいったのによ。じゃあ、いいんだな、お前のことばらしても。

庄司 ばらすつてなにを？

角田 お前がおれにしたこと。お前がホモだつてこと。

庄司 言いたければ言えばいい。

角田 え？

庄司 でも、みんなおどろかないと思うよ、僕、自分はゲイだつて、これから普通に言つてくつもりだから。それに、角田さあ、あのこと話すと困るんじゃないの？

角田 なんだ？

庄司 だつて、ホモと寝てたつて気持ち悪がられるのは角田なんじゃない。

角田 それはお互いさまだろうが。

庄司 僕はなんとも思っていないから。言ってもいいけど、ほんとうかって聞かれたら、角田が寝てる僕に手を出してきたつていうから。いいよね。

角田 なんだよ。それ？



庄司 じゃあね、部活あるから。

庄司、退場。

角田 おい。……なんだよ。

角田、退場。

場面は保健室。

浅野と池内。

池内、窓の向こう、校庭にいる生徒たちを見ている。

池内

私、やっぱり、スクールカウンセラーの資格取ろうと思うんだ。うちの子ももうじき大学卒業だし、そうしたら、給料安くなっても大丈夫。いくつかの学校担当して、いろんな子と会って、いろんな話がしたいな。藤原くんや、浅野先生のことも。こういう人がいるんだよって。

浅野 池内先生。

池内 もちろん匿名で。

浅野 そうしてください。

池内

デボラ・カーが出てる古い映画で「お茶と同情」っていうのこないだ見たの。男子校の寄宿舎が舞台で、女みたいだっけっていじめられてる学生を、舎監の妻がなぐさめる。彼女はこう言うの。「どんなに困ってる子がいっても、私にはこうして、お茶と一緒に飲んで、同情することしかできない」って。だから「お茶と同情」。同情はシンパシーなんだけど、いやだなって思ったの。なんで共感じゃないんだろうって。それで決めたの、私は、同情するんじゃないって、共感する、スクールカウンセラーになろうって。

浅野 いいと思いますよ。

池内 応援して。いや、共感して。

浅野 はい。

池内、退場。

浅野、客席に語りかける。

浅野

7月の末、同性愛者には人権がないという発言をした議員に抗議する集会がありました。抗議に共感した人たちが何千人も集まっていました。同情ではなく、共感。そして、8月。最初の土曜日。みんなで花火大会に行くことになりました。企画したのは。中野さんです。ブラスバンドのメンバーと藤原くんも来ています。

中野、藤原、庄司、内藤が登場。

中野

ねえ、雄太は？

藤原

先に行つて、場所とりしてらつて。

庄司

毎年来てるんで、いい場所知つてる。

内藤

早く行こうよ。

庄司

うん。

庄司、内藤、退場。

中野 浅野先生。私、春日さんにとってもお世話になって。

浅野 こちらこそ。ずっと忘れようとしたこと、思い出させてもらいました。

中野 そう？

浅野 花火大会、二人で来たことがあって、まあ、そのときも喧嘩して、そっぽ向いたまま花火見て帰ったんですけど。一緒に見れたらよかったって思います。

中野 見てるよ、ちゃんと。

浅野 ええ、このへんにいたりするんですか？

中野 私に誰かが見えるとしたら、それはその人のことを思い出してる誰かがいるからなんだって、最近、気がついたの。

浅野 そうなんですか。

中野 そう。だから、あなたが彼にいてほしいと思えば、いつもそこにいるし。思い出すことがなくなったら、いなくなっちゃったってことになるんだと思うよ。

浅野 ……。

中野 だから、思い出して。

浅野 はい。

中野 じゃ。

中野、退場。

浅野、空を見て、考えている。

浅野 (藤原に気付いて) あ、ごめん。じゃあ、行こうか。

藤原 はい。

藤原、浅野に手をさしだす。

浅野 え？ 何それ？

藤原 いや、つないでみてもいいんじゃないかって。

浅野 別にいいよ。

藤原 別にいいなら、ぜひ。

浅野 だって、人が見るし。

藤原 みんな花火見えますよ。

浅野 まだ始まってないし。

藤原 さあ。

浅野、決心して手をつなごうとするとき、最初の花火が打ち上がった。

幕

劇団フライングステージ第44回公演  
「お茶と同情 Tea and Sympathy」

日程 二〇一八年八月八日(水)～十二日(日)  
会場 OFF・OFFシアター

作・演出 関根信一

出演 石坂純 (劇団ひまわり)

石関準 (フライングステージ)

井手麻渡 (無名塾)

鎌内聡

岸本啓孝 (フライングステージ)

木村佐都美 (おちないリンゴ)

小林将司 (ノンストップエージェンシー)

清水泰子

関根信一 (フライングステージ)

照明 伊藤馨

音響 樋口亜弓

衣裳 石関準

舞台監督 水月アキラ

イラスト ぢるぢる

デザイン 石原燃

制作 渡辺智也

三枝 黎

協力 M・M・P

おちないリンゴ

株式会社仕事

ノンストップエージェンシー

劇団ひまわり

無名塾

CoRich 舞台芸術一

企画製作 劇団フライングステージ